

第5章 防災啓発・研究活動

1. 展示会への出展

1 建設技術フェア 2006 in 中部 (国土交通省他 主催)

平成 18 年 11 月 8 日 -9 日 (ナゴヤドーム)

「地震情報活用による地震防災力の向上」

2 産学交流テクノフロンティア 2006 (愛知県・名古屋市・名古屋商工会議所主催)

平成 18 年 11 月 8 日 - 10 日 (吹上ホール)

両展示会に出展し、地震防災コンソシアムの取り組みや企業防災と産学連携の技術開発計画などを紹介した。



展示会ポスター



写真 1. 産学交流テクノフロンティアの様子

2. オープンキャンパス

愛知工業大学への入学を希望する受験生や在校生に向けて、平成18年7月29日（夏季）と平成18年10月15日（秋期）に実施されたオープンキャンパスにおいて、地域防災研究センターの展示施設を開放した。企業防災システム（Ai-SYSTEM） 端末機器や地域防災研究センターの建物の免震装置等に見学者は熱心に見入っていた。その他にも、自走ぶるる（振動現象を体験できる装置）が人気を集めていた。



写真1. オープンキャンパスの様子（免震装置の説明を聞く見学者）

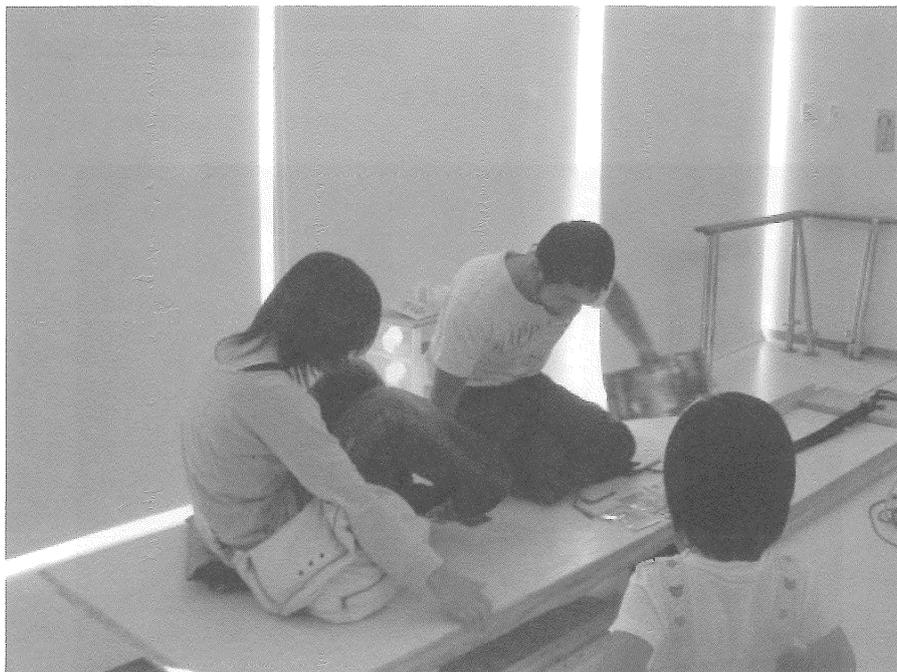


写真2. オープンキャンパス地震体験コーナー（自走ぶるる）

3. 学生防災ボランティア「アイテックス」活動報告

正木和明

1. 目的

愛知工業大学防災ボランティア団体「アイテックス」は本学に在学する愛知防災カレッジ卒業生 10 名で組織されており、18 年度は結成 3 年目に当たった。活動目的は、愛知防災カレッジで学んだ災害に関する専門知識を活用し、学生・市民への防災啓発活動、災害時における救援・支援活動を行うことにある。

平成 18 年度には以下の活動を行った。

2. 「本学チャレンジプロジェクト補助金」による電動式小型震動台の開発

H18 年度学生チャレンジプロジェクトに応募、採択された。研究テーマは「地震防災学習用小型震動台の開発」、補助金額は 33 万円である。市販の震動台価格は一般に高価であるが、本プロジェクトではスライダを転用することで低価格の震動台を開発した。スライダはメーカーから販売されている一般的な製品である。本来は、スライダ台上に生産部品を取り付け、順次部品を送りながら穴あけ、ねじ留め、などの工程を自動制御で行う工作機械である。動力としてパルスモーターが用いられていることから、パソコンからのデジタル信号で送り速度、送り幅を自由に制御可能であり、この機能を利用して震動台として転用できる。写真 1 に震動台の全景を示す。スライダは長さ 50cm、重量 5kg であり、携帯移動できる。スライダにコントローラー、ドライバー、電源、パソコンを組み合わせたシステムとなっている。開発したスライダは最大変位振幅 20cm、最大加速度は(10kg の模型を載せた場合) 400gal 程度の強震動を再現できる。

写真 2 には、スライダ上にアクリル製の模型を載せた様子が示されている。このような防災学習用模型を今後開発し、小学校等において啓蒙活動を推進することとしている。



写真 1 震動台全景。最手前のスライダレール上の四角い台 (7 × 7cm) が左右にレール長 40cm。

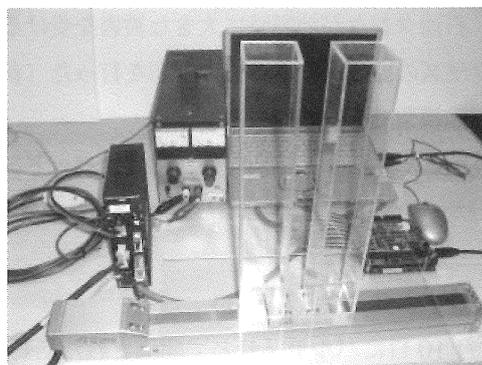


写真 2 震動台にアクリル製家具模型を載せた状態を示す。震動波形は PC により震動する。り与える。

3. 大学コンソーシアムせと「大学生によるまちづくり活動応援助成金」による市民防災学習支援活動

「大学コンソーシアムせと」は瀬戸市近郊の 6 大学により組織されており、本学も参加している。コンソーシアムは活動の一環として「大学生によるまちづくり活動応援助成金」制度を設け大学生による市民向け活動を支援している。アイテックスは 18 年度事業に応募、採択された。テーマは「市民防災学習支援活動」、補助金額は 20 万円である。以下に活動内容を示す。

ア. 展示用パネルの制作 (写真 3)

大学内活動・展示会・講演会において随時、防災、特に地震に関する知識を紹介するための展示パネルを制作

した。パワーポイントで原稿を作成編集し、それをA1サイズで印刷、パネルに貼り付け、展示用のパネルを制作した。10月15日（日）に開催された大学のオープンキャンパスに展示参加した。

イ. 交流フェスタ 2006in パルティセとへの参加（写真4）

2006年12月16日（土）にパルティセと内で開催された交流フェスタ 2006 にブース出展し、作成したパネル、防災用品を展示した。親子に震動台による家具模型の揺れ方を体験させ防災の大切さについて理解をさせた。紙ぶるるという建物の揺れを手軽に体験できるグッズの配布も行った。（参加市民は約50名、スタッフ参加4名）



写真3 展示パネル。「海溝型地震」、「新潟中越地震」、等のパネル作成活動、

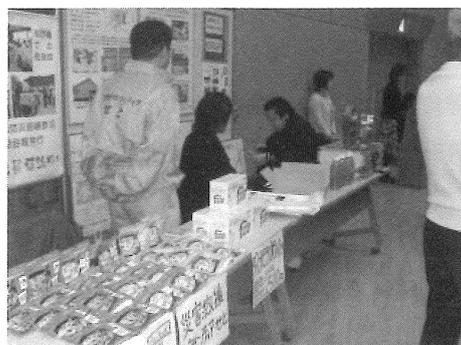


写真4 交流フェスタ出展（第1回目
18年12月16日、パルティセと。
右側机に模型、後ろにパネル展示）

ウ. 平成19年消防出初式 防災PRコーナーへの参加（写真5）

2007年1月14日（日）にパルティセとで開催された消防の出初式にて行われた防災PRコーナーへブースとして出展した。震動台の家具模型に改良を重ね、より家具転倒防止の重要性を理解しやすく改良し、家具転倒防止の他、石油タンクが地震時に大きな被害を受けるメカニズムも体験できるようにした。震動台の他にもパネルや防災グッズの展示、紙ぶるるの配布を行った（参加市民は約120名、スタッフ参加5名）

エ. 震動実験模型モデルの作成

市民に体験してもらった実験の内、粘着性パッドを用いた家具転倒防止実験が最も子どもたちに最も関心の高いことが分かったので、試作を繰り返し、工夫を重ねて模型モデルを作成した。今後、20名に対しデモが可能となった。

オ. コンソシアム発表会（写真6）

19年3月10日にパルティセとで開催された活動成果発表会で、名古屋産業大学、南山大学とともに成果を公表し、審査委員から高い評価を得た。

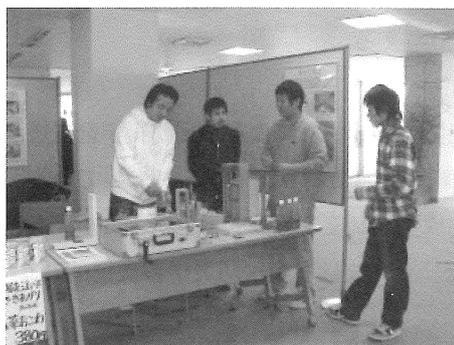


写真5 消防出初式に展示
(H19年1月14日、パルティセと)



写真6 活動成果報告会
(H19年3月10日、パルティセと)

(4) 幸田町防災フェスタに支援スタッフとして参加(写真7、8)

18年11月25日～26日において愛知県幸田町において開催された防災フェスタに幸田町からの依頼により支援スタッフとして参加した。愛知防災カレッジで培った知識と技術を用いて、町消防団、静岡県防災ボランティアとともに市民・子供に対し防災学習・訓練を指導した。



写真7 幸田町防災フェスタに支援スタッフとして参加(18年11月25～26日、女性は幸田町スタッフ)



写真8 段ボールを用いた保温性布団の作成指導(青服は静岡県の防災ボランティア)

4. 公開講座 「地域防災研究センター連続講座」を開催

一般市民向け公開講座を愛知工業大学 本山キャンパスにて全6回開講した。講座内容については以下の通りである。前期は「安全な建物はどうやって造られるのか？」講座と題し、建築構造の専門家が「安全な建物を造る過程」について講義。後期は、「防災技術最前線を学ぶ」講座と題し、地域防災研究センターの様々な専門家たちが地震防災について講義を行った。受講者数は、14名（前期第1回）、12名（前期第2回）、6名（前期第3回）、17名（後期第1回）、19名（後期第2回）、12名（後期第3回）となり、多くの市民が地震防災について学んだ。

講座内容

前期：「安全な建物はどうやって造られるのか？」講座

第1回 H18年5月24日 「建物の安全の話」 岡田久志 教授
安全性はどこまで保障されているのか。すべては設計から

第2回 H18年6月21日 「建物設計の話」 中村満喜男 教授
地震、風、雪に耐えられる強い建物を作るにはどうすればよいか？を解説

第3回 H18年7月19日 「構造計算の話」 曾我部博之 教授
コンピュータを使ってどのようにして建物の安全性を調べるのか？を解説

後期：「防災技術最前線を学ぶ」講座

第1回 H18年11月6日 「緊急地震速報を利用した地震対策」 正木和明 教授
緊急地震速報の原理と活用事例について解説。

第2回 H18年11月20日 「名古屋における長周期地震動の問題」 入倉孝次郎 教授
東南海地震や南海地震のような巨大地震が発生した際、高層ビルや石油タンクなどの長大構造物がどうなるかを解説。

第3回 H18年12月4日 「名古屋の地形から東海豪雨水害を見る」 廣内大助 研究員
東海豪雨で大きな被害を受けた名古屋市や北名古屋市。被災地域を含む濃尾平野の特徴を地理学的視点から見直し、被害の発生要因や対策、将来予測などについて解説。

5. コンソーシアムせと 「単位互換講座」の実施

大学コンソーシアムせととは、瀬戸市と近隣高等教育機関6大学が協同して、瀬戸地域の新しい文化活動を創生していくために結成された組織です。大学コンソーシアムせとの事業の一つに、単位互換・共同講座の開講があります。尾張瀬戸駅前にある「パーティせと」の教室を使用し、大学の授業が開講されます。この授業を履修した場合、愛知県下の大学の学生については愛知懇話会における単位互換に関する包括協定に基づき、基本的には自大学において修得した単位の扱いとなります。また、愛知学長懇話会加盟大学の学生以外の大学生又は、一般市民の方の場合は、科目等履修生として大学からの単位認定を受けることができます。地域防災研究センターでは、下記講座を開講いたしました。受講者数は、40名となり、多くの学生・市民が地震防災について学んだ。

「都市防災Ⅰ」講座

この講義では、都市災害の歴史を概観するとともに、都市にかかわるさまざまな災害発生メカニズムを明らかにする。また、災害と現在の人間生活との関係についても考察するとともに、被害を防ぐ、もしくはより小さくするための社会的対策・個人の対処方法についても示していく。

- 第1回 H 18年5月9日 都市災害の歴史（正木和明教授）
- 第2回 H 18年5月16日 地震災害と地震学（正木和明教授）
- 第3回 H 18年5月23日 地震の揺れと被害予測はどのようにして行うのか？（正木和明教授）
- 第4回 H 18年5月30日 活断層とはなにか（廣内大助研究員）
- 第5回 H 18年6月6日 活断層地震に備える（廣内大助研究員）
- 第6回 H 18年6月13日 ライフライン災害と都市火災（正木和明教授）
- 第7回 H 18年6月20日 平野の地形と人々の暮らし（廣内大助研究員）
- 第8回 H 18年6月27日 平野の地形分類と水害予測（廣内大助研究員）
- 第9回 H 18年7月4日 都市リスクマネジメント（小池則満准教授）
- 第10回 H 18年7月11日 災害時の救命救急システム（小池則満准教授）
- 第11回 H 18年7月18日 都市の社会構造と災害（西村雄一郎研究員）
- 第12回 H 18年7月25日 家族の生活時間・空間と防災（西村雄一郎研究員）
- 第13回 H 18年8月1日 都市の地震対策：災害で死なないために（正木和明教授）
- 第14回 H 18年8月2日 フィールドワーク瀬戸近辺（廣内大助研究員）
- 第15回 H 18年8月2日 愛知工業大学地域防災研究センター見学（西村雄一郎研究員）



写真：8月2日のフィールドワークの様子

6. 高校生地震防災研究プログラムの推進

平成 17 年度から「高校生地震防災研究プログラム」を開始している。その狙いとするところは、今後の防災研究を担う若者を育てることである。その詳細は平成 17 年度年報に書いてあるので参照していただきたい。平成 18 年度は 2 校の参加があった。2 校は研究成果を第 5 回 AIT サイエンス大賞で発表し優秀な成績を上げている。

(1) 愛知県立小牧南高等学校理科部（顧問：田辺元祥先生）「地盤の液状化に伴う噴砂現象」

地震の度に報道され既に多くの人にも知られるようになった液状化現象に注目し、アクリルパイプを用いたユニークな実験装置を開発して、液状化現象の再現とそのメカニズムの解明を目的とした研究である。

パイプの内部に複数の砂地盤を堆積させ連続的に振動を与えると、粘土層と砂層との間に間隙水が貯留を始め、その後粘土層を破って地表に向かって上昇していく様子を見事に再現している。また、上昇したサンドパイプが最上部の細礫層・粘土層を突き破って地表に噴砂する様子も捕らえている。

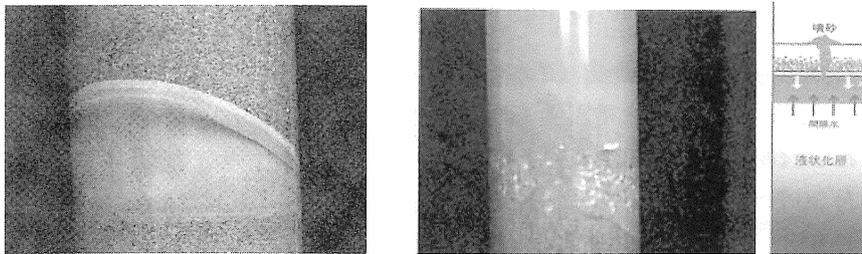


写真 1 砂層面上に現れた間隙水層 写真 2 地表に噴出した噴砂現象とその説明図

(2) 静岡県立浜松工業高等学校知的制御研究部（顧問：蝶野宏明先生、桂智明先生）「極限作業用人工型ロボットの基礎研究」

写真 3 が災害救助用ロボット R-Seeker (レッドシーカー) である。全長 461mm、重量 3.3Kg、動力源はニッケルバッテリーである。人間と同じような関節構造（自由度は腕部 5 自由度×2 本、胸部 3 自由度、脚部 6 自由度×2 本の性能を持っている）を持っているため、段差を乗り越えることや、タイヤ式では移動できない不整地でも移動できる。災害用ロボットに要求される揺れに対する耐震性も持ち、震度 6 強の揺れにも倒れることが無い。

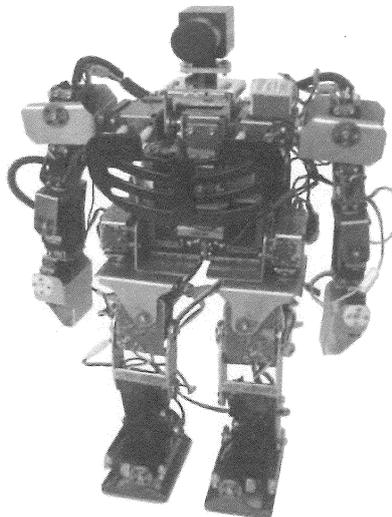


写真 3 災害救助用ロボット R-Seeker

7. 親子参加型センター見学会の開催

平成19年3月18日 10時～12時 猿投北交流館・春休み子ども交流館「地震の科学を探検しよう」と題して、地域防災研究センターにて親子参加型の見学会が行われました。

小学生と保護者 あわせて25名が参加し、地震について学び、考え、体験をしました。

「実際に自分たちで実験し、体験したことにより 地震について興味をもって学ぶことができた」「日ごろの備えが大切だということを身をもって実感したので 自宅にかえって家族で話し合いをします」など多くの感想をいただきました。

プログラム

1. 開講式
2. 自走ぶるるにて地震体験
3. 間仕切を用いた体育館避難部屋の組立て
4. 手回しぶるるを使った家の振動実験
5. 私の振動台製作と家屋転倒防止実験
6. 終わりのあいさつ



写真1 手回しぶるるによる実験



写真2 講義の様子



写真3 地域防災研究センター見学の様子



写真4 参加者全員で集合写真

8. 平成 18 年度 マスメディア取材 一覧

記事

日付	記事のタイトル	掲載新聞
2006年4月16日	地震発生→キャンパスでサイレン 愛工大が今夏導入	読売新聞
2006年7月29日	「減災」カギは情報周知 緊急地震速報、来月始動	朝日新聞
2006年9月15日	「防災ユースフォーラム」 名大・愛工大 16・17・18日	読売新聞
2006年9月1日	「減災」一秒でも早く	中日新聞
2006年9月1日	的確で安全な避難を 「緊急地震速報」使い 研究	読売新聞
2007年1月22日	震災対策セミナー（下）企業防災に取り組む愛知と死者ゼロを目指す徳島（あいぼう会）	JanJan
2007年2月11日	次の大地震いつ 断層調査を公開 一岐阜で愛工大一	朝日新聞 尾張版・岐阜版

報道

日付	番組名	内容	報道機関
2006年8月1日	ニュースリアルタイム	「グラット来る前に新システム一部スタート」 企業や鉄道会社などで運用が始まった緊急地震速報について紹介	中京テレビ
2006年8月1日	ほっとイブニング	「緊急地震速報一部で運用開始」 愛知工業大学で緊急地震速報を用いた避難計画や正木先生のインタビューが放送	NHK
2006年8月1日	NHK ニュース7	緊急地震速報についての正木先生のインタビューが放送	NHK
2006年8月24日	はやみみラジオ！水野晶子です	防災センターから速報を配信している企業のひとつの三洲電線様へのレポートが放送	MBS
2006年12月11日	NHK ニュース	あいぼう会発足式の様子が放送	NHK
2006年12月14日	「イッポウ」	愛工大で行われた避難訓練の様子が放送	CBC
2006年12月14日	UP!	〃	メ〜テレ
2006年12月14日	スーパーニュース	〃	東海テレビ
2006年12月14日	NHK ニュース7	〃	NHK
2007年1月13日	峰竜太の地震ファイル～東海	「いま活断層が危ない！名古屋で直下型地震の危険性は？」 番組内で阿寺断層の地形や活動性などに関する解説を廣内研究員が行いました。	東海テレビ
2007年1月16日	スーパーニュース	1/13に放送された阿寺断層の位置や活動性について、廣内研究員の解説が再度放送。	東海テレビ
2007年2月10日	ANN ニュース & スポーツ	廣内研究員の研究する阿寺断層一般公開の様子が報道	メーテレ
2007年2月10日	スーパーJチャンネル	〃	メーテレ
2007年2月10日	イブニングニュース	〃	CBC
2007年2月11日	バンキシャ	〃	中京テレビ
2007年2月21日	おはよう東海	12月に行われた緊急地震速報を利用した避難訓練のアンケート結果が放送	NHK
2007年3月13日	イッポウ	12月14日に実施した緊急地震速報を利用した避難訓練におけるアンケート結果についての放送	CBC

地域防災研究センター委員 講演会等リスト

【正木 和明】

- ・大学コンソーシアムせと「都市災害の歴史」, パルティせと, 2006年5月9日
- ・大学コンソーシアムせと「地震災害と地震学」, パルティせと, 2006年5月16日
- ・大府市防火危険物安全協会講演会, 「地震災害シナリオ」, 2006年5月17日
- ・大学コンソーシアムせと「地震の揺れと被害予測はどのようにして行うのか?」, パルティせと, 2006年5月23日
- ・大学コンソーシアムせと「ライフライン災害と都市火災」, パルティせと, 2006年6月13日
- ・大学コンソーシアムせと「都市の地震対策: 災害で死なないために」, パルティせと, 2006年8月1日
- ・愛知県被災建物応急危険度判定士講習会, 「地震について」, 2006年10月11日
- ・名古屋市瑞穂生涯学習センター公開講座, 「大地震、その日に備えて~大地震、その時瑞穂区は?」, 2006年10月17日
- ・岐南町後期講座「災害にどう立ち向かうか→正しく恐れて立ち向かう」, 2006年10月25日
- ・愛知工業大学オープンフォーラム, 「今、最もホットな地震対策—緊急地震速報」, 2006年10月28日
- ・愛知工業大学本山キャンパス公開講座, 「これから最もホットな話題, 緊急地震速報の仕組みと限界」, 2006年11月6日
- ・東海市コミュニティ連絡協議会研修会, 「大地震、その日に備えて~大地震、その時東海市は?」, 2006年12月3日
- ・梅坪台地区コミュニティ会議・梅坪交流館安心安全まちづくり講座, 「地震災害シナリオ~その時梅坪台住民はどうするのか~」, 2007年2月24日
- ・愛知県建築住宅センターすぐに役立つ実感セミナー, 「地震に備えた安全対策と都市共生」, 2007年3月8日
- ・豊田市地震対策事業所連絡会, 「企業防災対策の具体的進め方について」, 2007年3月9日
- ・愛知学院大学モーニングセミナー第12回, 「地震が来るまで、9.8.7...1秒~緊急地震速報が始まる」, 2007年3月13日
- ・豊田市生涯学習センター猿投北交流館, 「春の子供交流館。地震の科学を探検しよう」, 2007年3月18日
- ・長久手町防災講演会, 「大地震、その日に備えて~その時、長久手は?」, 2007年3月21日

【入倉 孝次郎】

- ・京都大学防災研究所研究集会, 使える地震予測を目指して - 最近10年間の地震予知研究における成果と展望 - 「強震動予測とアスペリティモデル」京都大学宇治キャンパス内 木質ホール, 2006年6月8日
- ・強震動予測の現状と今後の展望, 原子力講演会, 大阪大学中ノ島センター大ホール, 2006年10月13日
- ・「名古屋における長周期地震動の問題」, 愛知工業大学地域防災研究センター公開講座, 本山キャンパス, 2006年11月20日
- ・強震動地震学の発展の歴史とレシピへの展開, 日本建築学会 第34回地盤震動シンポジウム, 建築会館ホール, 2006年11月30日
- ・京都大学「災害医療を考える」シンポジウム, 京都を襲う大地震とその揺れの特徴, 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール, 2007年1月13日
- ・振興調整費「総合化地下構造データベースの構築」シンポジウム, 地震防災対策のための地下構造データベースと強震動予測の高度, つくば国際会議場, 2007年3月9日

【建部 謙治】

- ・AIT オープンフォーラム講演, 「人にやさしい住まい・街」, No.57, 2006年9月
- ・中部経済連合企業防災連絡会視察会講演, 「企業防災カルテに関する取り組み」, 2006年12月
- ・「遊具・保育所のデザインワークショップ」, 東海子ども研究会講演, 2007年3月1日

【長瀧 重義】

- ・第3回クリーン・コール・セミナー講演, 「日本の石炭灰有効利用について」, 沖電那覇ビル, 2006年7月5日
- ・品質管理監査制度の生い立ちとその成果」, 全国生コン山口工業組合, 2006年7月6日
- ・全国生コン工組連関東一区地区本部講演会, 「生コンクリート品質管理監査制度～その生い立ち、現在および将来の展望」, 日本工業倶楽部, 2006年9月29日
- ・愛知県コンクリート製品協同組合設立20周年記念講演会, 「21世紀のコンクリート工学の考察」, メルパルク名古屋, 2006年10月11日
- ・第24回九州地区協組運営委員会研修会講演, 「生コンクリート品質管理監査制度の誕生 - 現状 - 将来展望」, JALリゾートシーホークホテル福岡, 2007年3月12日

【岡田 久志】

- ・本山キャンパス公開講座(地域防災研究センター講座), 「安全な建物はどのように造られるのか? 建物の安全性の話」, 2006年5月24日
- ・「JASS6、鉄骨工事技術指針・鉄骨精度測定指針改定講習会」講師, 東京, 金沢, 名古屋会場, 2006年2月

【曾我部 博之】

- ・本山キャンパス公開講座(地域防災研究センター講座), 「安全な建物はどのように造られるのか? 構造計算の話」, 2006年7月19日

【中村 満喜男】

- ・本山キャンパス公開講座(地域防災研究センター講座), 「安全な建物はどのように造られるのか? 建物設計の話」, 2006年6月21日

【小池 則満】

- ・大学コンソーシアムせと「都市リスクマネジメント」, パルティせと, 2006年7月4日
- ・大学コンソーシアムせと「災害時の救命救急システム」, パルティせと, 2006年7月11日
- ・(財)豊田都市交通研究所 平成18年度(2006年度)研究報告会, 震災時における傷病者搬送のための交通インフラ整備に関する研究(2006年9月22日)

【廣内 大助】

- ・天白川流域住民へのアンケート調査結果. 公開シンポジウム「流域でみる洪水ハザード」, 災害・防災学習カリキュラム開発委員会, 名古屋大学, 2006年4月15日
- ・TKPB(東海圏開発プロジェクト分科会) 防災委員会勉強会, 「活断層を知り、備える」, 伊藤忠商事名古屋支社, 2006年5月23日

- ・大学コンソーシアムせと「活断層とはなにか?」, パルティせと, 2006年5月30日
- ・大学コンソーシアムせと「活断層地震に備える」, パルティせと, 2006年6月6日
- ・大学コンソーシアムせと「平野の地形と人々の暮らし」, パルティせと, 2006年6月20日
- ・大学コンソーシアムせと「平野の地形分類と水害予測」, パルティせと, 2006年6月27日
- ・名古屋の地形から東海豪雨水害を見る, 愛知工業大学本山キャンパス公開講座 (Open College), 愛知工業大学本山キャンパス, 2006年12月4日

【西村 雄一郎】

- ・大学コンソーシアムせと「都市の社会構造と災害」, パルティせと, 2006年7月18日
- ・大学コンソーシアムせと「家族の生活時間・空間と防災」, パルティせと, 2006年7月25日
- ・大学コンソーシアムせと「愛知工業大学地域防災研究センター見学」, パルティせと, 2006年8月2日

各種委員等

【正木 和明】

- ・愛知県建設部あいちの新しい下水道ビジョン検討委員会委員
- ・日本物理探査学会評議員

【入倉 孝次郎】

- ・日本学会議会員
- ・独立行政法人防災科学技術研究所客員研究員
- ・文部科学省地震調査推進本部地震調査委員会委員、強震動評価部会長
- ・科学技術・学術審議会測地学分科会臨時委員
- ・内閣府中央防災会議専門調査会専門委員
- ・内閣府原子力安全委員会専門委員
- ・経済産業省総合資源エネルギー調査会臨時委員
- ・科学技術・学術審議会学術分科会臨時委員
- ・科学技術・学術審議会学術分科会 学術研究設備作業部会委員
- ・科学技術・学術審議会学術分科会 研究環境基盤部会委員
- ・京都府地震被害想定調査委員会委員
- ・耐震設計審査指針専門委員会委員
- ・大都市圏地殻構造調査研究運営委員会委員
- ・強震観測事業推進連絡会議委員
- ・地震防災評価機構運営会議委員
- ・防災研究フォーラム幹事会委員
- ・原子力発電耐震設計専門部会委員 地震・地震動部会委員
- ・文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向研究センター専門調査員
- ・防災に関する国際シンポジウム (I S M D 2 0 0 6) 科学技術委員
- ・防災科学技術研究開発課題外部評価委員
- ・社団法人日本地震学会監事
- ・社団法人日本地震学会代議員

- ・ 社団法人日本地震学会災害調査委員会委員
- ・ 社団法人土木学会東海地震等巨大災害への対応特別委員会委員
- ・ 社団法人土木学会巨大災害への対応検討特別委員会地震動部会委員
- ・ 社団法人土木学会・日本建築学会京大地震対応共同研究連絡会地震動部会委員
- ・ 財団法人震災予防協会評議員
- ・ 独立行政法人原子力安全基盤機構 P S A 検討会・地震ハザード評価分科会委員
- ・ 財団法人地域地盤環境研究所評議員

【建部 謙治】

- ・ 日本建築学会避難計画小委員会委員
- ・ 日本建築学会避難情報 WG 委員
- ・ 日本建築学会建築計画委員会建築人間工学基礎資料整備WG 委員
- ・ 日本建築学会東海支部設計計画委員長
- ・ 日本インテリア学会東海支部長
- ・ 豊田市都市景観審議会会長
- ・ 豊田市景観基本計画有識者会議副委員長
- ・ 独立行政法人建築研究所「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発に関する検討委員会」委員 「ユニバーサルデザイン及び分野横断的課題への対応」分科会座長

【長瀧 重義】

- ・ 国土交通省 公正入札調査会議委員
- ・ 国土交通省 ダム技術会議委員
- ・ 日本工業標準調査会標準部会 土木技術専門委員会委員長
- ・ 全国生コンクリート工業組合連合会 全国生コンクリート品質管理監査会議議長
- ・ 全国生コンクリート工業組合連合会 レディーミクストコンクリート JIS 改正調査委員会委員長
- ・ 社団法人 土木学会 ISO 対応特別委員会顧問
- ・ 社団法人 土木学会 コンクリート委員会顧問
- ・ 社団法人 セメント協会 論文賞選考委員会委員
- ・ 社団法人 セメント協会 ISO TC74 国内審議会委員長
- ・ 財団法人 港湾空港建設技術サービスセンター 外国産資材品質審査・証明事業運営委員会委員長
- ・ 財団法人 土木研究センター評議会委員
- ・ 財団法人 前田記念工業振興財団 前田工学賞選考委員会副委員長
- ・ 財団法人 ダム技術センター 嘉瀬川ダム RCD 工法合理化検討会委員長
- ・ 財団法人 ダム技術センター 新技術開発等検討委員会委員長
- ・ 財団法人 ダム技術センター ダム普及啓発活動促進委員会委員長
- ・ 財団法人 ダム水源地環境整備センター 品木ダム技術検討委員会委員長
- ・ ステンレス協会 ステンレス鉄筋施工指針準備委員会委員長
- ・ 成田国際空港株式会社 競争契約監視委員会委員

【岡田 久志】

- ・日本建築学会 鉄骨工事運営委員会・幹事
- ・日本建築学会 鉄骨加工小委員会主査
- ・日本建築学会 鉄骨測定精度小委員会委員
- ・日本建築学会東海支部 構造委員会委員
- ・日本建築センター 鉄鋼系住宅構造審査委員会委員
- ・日本建築センター 電算プログラム審査委員会委員
- ・全国鐵構工業会中部地区評価委員
- ・アルミ建築構造推進協議会薄板分科会委員

【曾我部 博之】

- ・日本建築センター 電算プログラム審査委員会委員
- ・愛知県建築住宅センター 耐震診断判定部会及び耐震改修評定部会委員
- ・日本計算工学会 研究分科会委員
- ・日本建築学会 ソフトコンピューティング研究小委員会委員
- ・日本建築学会 構造物の性能最適化とロバスト性小委員会委員
- ・日本建築学会 卒業論文等顕彰事業委員会

【小池 則満】

- ・豊田市総合計画審議会委員
- ・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会 作業部会ファシリテーター

【廣内 大助】

- ・新修名古屋市史編集委員会専門委員（資料編「自然」担当）
- ・日本地理学会災害対応委員会委員
- ・主要活断層調査検討委員会委員
- ・国立歴史民俗博物館共同研究員
- ・独立行政法人産業技術総合研究所活断層研究センター協力研究員

【南部 世紀夫】

- ・リアルタイム地震情報利用協議会 データ伝送WG委員
- ・地域安全学会・BCP小委員会委員

【高橋 郁夫】

- ・リアルタイム地震情報利用協議会 大型施設対応WG委員
- ・リアルタイム地震情報利用協議会 産業機器制御対応WG委員
- ・地域安全学会・BCP小委員会委員

地域防災研究センター委員 実績リスト

【著 書】

- ・**入倉孝次郎**: 総論: 巨大地震による長周期地震動—予測と今後の対応策—, 月刊地球, 号外 55, pp.5-15 (2006)
- ・**成田国朝**: 「地盤工学用語辞典」, 地盤工学会編, 第 18 章水利構造物 (ダム, 堤防および水路), pp.381-397 (2006.3)
- ・**Kobashi, T.** and T. Goto, A Research on the Dynamics of Cooperation and Competition, in N. Gould(ed.), Engagement, University of Glamorgan, pp.159-166, 2006.
- ・**Kobashi, T.** and N. Ito, Toward a Developmental Model of Inter-organizational Learning in Cooperative Strategies, in M. Rod (ed.), The Book of Abstracts and Programme: 13th International Conference on Multi-Organizational Partnerships, Alliances and Networks - Beyond Borders, Victoria University of Wellington, pp.62-63, 2006.
- ・**西村雄一郎**: 「トルステン・ヘーゲルランドー時間地理学—」『都市空間の地理学』加藤政洋・大城直樹編, ミネルヴァ書房, pp.99-111 (2006.9)
- ・Yuichiro Nishimura and Kohei Okamoto: Time-Geographic Analysis On The Change Of Jobs In Vientiane Municipality, Laos, The Lao Agriculture and Forestry Journal: Vientiane, Laos (2007 印刷中)
- ・**長瀧重義**: 「コンクリート技士 試験問題と解説」技報堂出版 (2006.7)
- ・**長瀧重義**: 「コンクリート主任技士 試験問題と解説」技報堂出版 (2006.7)

【論 文】(審査付)

- ・Zhang, W., T. Iwata, and **K. Irikura**: Dynamic simulation of a dipping fault using a three-dimensional finite difference method using nonuniform grid spacing, J. Geophys. Res., 111, B05301, doi:10.1029/2005JB003725, (2006)
- ・平井俊之, 釜江克宏, 長沼敏彦, 伊藤進一郎, 西岡勉, **入倉孝次郎**: 分岐断層の特性化震源モデルを用いた兵庫県南部地震の強震動シミュレーション, 日本地震工学会論文集 第 6 巻, 第 3 号, pp1-11, (2006)
- ・鶴来雅人, 香川敬生, 岡崎敦, 羽田浩二, **入倉孝次郎**: 強震動予測のための高域遮断フィルターに関する研究— 1995 年兵庫県南部地震の観測記録に基づく検討—, 日本地震工学会論文集 第 6 巻, 第 4 号, 94-112, 2006
- ・Olga V. Pavlenko and **Kojiro Irikura**: Nonlinear Behavior of Soils Revealed from the Records of the 2000 Tottori, Japan, Earthquake at Stations of the Digital Strong-Motion Network Kik-Net, Bulletin of the Seismological Society of America, Dec 2006; 96: 2131 - 2145
- ・John X. Zhao, Jian Zhang, Akihiro Asano, Yuki Ohno, Taishi Oouchi, Toshimasa Takahashi, Hiroshi Ogawa, **Kojiro Irikura**, Hong K. Thio, Paul G. Somerville, Yasuhiro Fukushima, and Yoshimitsu Fukushima: Attenuation Relations of Strong Ground Motion in Japan Using Site Classification Based on Predominant Period, Bulletin of the Seismological Society of America, Jun 2006; 96: 898 - 913.
- ・John X. Zhao, **Kojiro Irikura**, Jian Zhang, Yoshimitsu Fukushima, Paul G. Somerville, Akihiro Asano, Yuki Ohno, Taishi Oouchi, Toshimasa Takahashi, and Hiroshi Ogawa: An Empirical Site-Classification Method for Strong-Motion Stations in Japan Using H/V Response Spectral Ratio, Bulletin of the Seismological Society of America, Jun 2006; 96: 914 - 925.

- ・河村彰男,山路徹,河野広隆,長瀧重義,「コンクリート中のステンレス鉄筋の耐腐食性能」,コンクリート工学年次論文集, Vol.28 No.1, pp.1019-1024 (2006.7)
- ・篠田佳男,横田 弘,二羽淳一郎,長瀧重義,「ステンレス鉄筋コンクリート部材の基礎的性質」,コンクリート工学年次論文集, Vol.28 No.2, pp.1687-1692 (2006.7)
- ・成田国朝,木村勝行:「透水力を考慮した斜面の安定解析」,ダム工学, vol.16, No.1, pp.55-59 (2006.6)
- ・小池則満,小林啓二,栗田敬司,「ドクターヘリ夜間ランデブーポイント設置の評価指標に関する研究」,日本航空医療学会雑誌,第7巻,第1号, pp.46-50(2006.5)
- ・小池則満,田代直人,内藤克己,高橋郁夫,正木和明,「リアルタイム地震情報による建設現場の地震災害リスク低減可能性に関する研究」,建設マネージメント研究論文集, Vol.13, pp.135-144(2006.12)
- ・澤 祥,田力正好,谷口 薫,廣内大助,松多信尚,安藤俊人,佐藤善輝,石黒聡士,内田主税,坂上寛之,隈元崇,渡辺満久,鈴木康弘,「糸魚川ー静岡構造線活断層帯北部,大町〜松本北部間の変動地形認定と鉛直変位速度解明」,活断層研究, 26号, pp. 121-136 (2006.6)
- ・松多信尚,澤 祥,安藤俊人,廣内大助,田力正好,谷口 薫,佐藤善輝,石黒聡士,内田主税,佐野滋樹,野澤竜二郎,坂上寛之,隈元 崇,渡辺満久,鈴木康弘,「写真測量技術を導入した糸魚川ー静岡構造線断層帯北部(梶池ー木崎湖)の詳細変位地形・鉛直平均変位速度解析」,活断層研究, 26号, pp. 105-120 (2006.6)
- ・Kazuaki Hori, Ryota Kuzumoto, Daisuke Hirouchi, Masatomo Umitsu, Naruekamon Janjirawuttikul, Boonrak Patanakanog“Horizontal and vertical variation of 2004 Indian tsunami deposits: an example of two transects along the western coast of thailand” , Marine Geology, pp. 163-172 (2007. 4)
- ・廣内大助,安江健一,内田主税,平松孝晋,谷口薫,杉戸信彦,金田平太郎,「完新世における阿寺断層帯湯ヶ峰断層の活動」, 27号(投稿中)(2007)
- ・田力正好,杉戸信彦,澤 祥,谷口 薫,廣内大助,松多信尚,佐藤善輝,石黒聡士,安藤俊人,内田主税,坂上寛之,隈元崇,渡辺満久,鈴木康弘,「糸魚川ー静岡構造線活断層帯中部,諏訪盆地北東縁の変動地形とその認定根拠,および変位速度分布」,活断層研究, 27号(投稿中)(2007)
- ・澤 祥,谷口 薫,廣内大助,松多信尚,内田主税,佐藤善輝,石黒聡士,田力正好,杉戸信彦,安藤俊人,隈元崇,佐野滋樹,野澤竜二郎,坂上寛之,渡辺満久,鈴木康弘,「糸魚川ー静岡構造線活断層帯中部,松本盆地南部・塩尻峠および諏訪湖南岸断層群の変動地形の再検討」,活断層研究, 27号(投稿中)(2007)
- ・高橋郁夫,南部世紀夫:緊急地震速報を活用した総合地震防災システム,アーバンインフラテクノロジー推進会議・技術研究発表会, 2006.11

【論文】(研究報告集、紀要等)

- ・小出栄治,福和伸夫,正木和明,原徹夫,大田賢治,糸魚川貢一,「建物観測のためのインターネット活用型低コスト地震計の開発」,日本建築学会技術報告集,第23号, pp.453-458 (2006.7)
- ・倉橋奨,正木和明,入倉孝次郎,「迫り来る東南海地震に対して三河地域の揺れはどうなるか、経験的サイト振幅特性・位相特性を考慮した強震動評価」,地震学会講演予稿集, pp.136 (2006.11)
- ・榎下峰治,倉橋奨,正木和明,入倉孝次郎,「半経験的手法を用いた猿投ー高浜断層帯における強震動予測」,愛知工業大学研究報告,第42号B, pp.117-125(2007.3)
- ・富田玄武,倉橋奨,正木和明,「微動アレイ観測による岡崎平野の地下構造探査」,愛知工業大学研究報告,第42号B, pp.127-133(2007.3)
- ・林龍男,倉橋奨,正木和明,入倉孝次郎,「P波初動を用いた震度予測方法の開発と緊急地震速報への応用」,

愛知工業大学研究報告, 第 42 号 B, pp.135-142(2007.3)

- ・ **入倉孝次郎**, 原子力発電所の耐震設計のための基準地震動, 日本地震工学会誌第 5 号 2007 年
- ・ **建部謙治**, 日本建築学会東海地震等巨大災害への対応特別調査委員会編, 建部謙治他:「巨大地震による長周期地震動の予測と既存建築物の耐震性と今後の課題」, 2006 年度日本建築学会大会(関東)特別調査部門研究協議会資料, (2006.9)
- ・ **建部謙治, 小橋勉, 田村和夫, 高橋郁夫**, 「地震時における中小企業の被害予測に関する研究」, 愛知工業大学研究報告, 第 42 号 B, pp.67-72 (2007.3)
- ・ 吉岡竜巳, **建部謙治**, 鈴木賢一, 「避難シミュレータを利用した小学校における防災教育の研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp.911-912 (2006.9)
- ・ 柘植美孝, **建部謙治**, 「愛知県営住宅の自治会活動について」, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第 45 号, pp.665-668 (2007.2)
- ・ 柘植美孝, **建部謙治**, 「愛知県における公営住宅の自治会活動に関する研究, 福祉・医療と地域コミュニティ問題を中心として」, 愛知工業大学研究報告, 第 42 号 B, pp.73-79(2007.3)
- ・ **長瀧重義**, 「コンクリート用化学混和剤 (JIS A 6204) 改正の概要とポイント」, コンクリートテクノ, Vol.25, No.5, pp9-17 (2006.5)
- ・ **長瀧重義**, 「解体と再利用の現状と提言」, 土木施工, Vol.47 No.9, pp.1-2 (2006.9)
- ・ **長瀧重義**, 「コンクリートの性能向上と地球環境保全からの混和剤への期待」, コンクリートテクノ, Vol.26, No.1, pp.44-47 (2007.1)
- ・ **小橋勉, 建部謙治, 田村和夫, 高橋郁夫** 「企業防災の評価軸についての取り組みの現状と展望」, 愛知工業大学研究報告, 第 42 号 B, pp.147-151(2007.3)
- ・ **西村雄一郎**, 「学界展望 知覚・行動」, 人文地理, 58-3, pp.36-37 (2006.8)
- ・ **Yuichiro Nishimura** and Kohei Okamoto. Time-Geographic Analysis On The Change Of Jobs In Vientiane Municipality, Laos. The Lao Agriculture and Forestry Journal: Vientiane, LAOS. (2007), 印刷中。

【その他】(報告書等)

- ・ **建部謙治, 小橋勉**, 「企業防災カルテを用いた詳細診断」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書(平成 17 年度), pp. 57-58 (2006.7)
- ・ **建部謙治, 小橋勉**, 「企業防災カルテ:現状と展望」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書(平成 17 年度), pp. 84-85 (2006.7)
- ・ **建部謙治**, 「新潟県中越地震での被災企業調査」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書(平成 17 年度), pp. 97-98 (2006.7)
- ・ **建部謙治**監修, 「公園を活用した自然体験教室の開催, 地域が連携して子どもが育つ遊び場をつくる, でこぼこ山自然クラブ, 愛知県住宅子育て支援モデル事業成果報告書(2007.2)
- ・ **長瀧重義**他, 「レディミクストコンクリートにおける環境対策の推進に係わる標準化調査研究成果報告書」, 経済産業省委託平成 18 年度工業標準化推進調査等委託事業(社会ニーズ対応型基準創世調査研究事業)(2007.2)
- ・ **岡田久志**, 「震央距離が建物の地震応答性状に与える影響について」, 地域防災センター年次報告書 vol.2, pp.70-71 (2006.7)
- ・ **岡田久志**, 「鉄骨工事標準仕様書 JASS6(鉄骨工事)(9 版)」, 日本建築学会(2007.2)
- ・ **岡田久志**, 「鉄骨工事技術指針・工場製作編(5 版)」, 日本建築学会(2007.2)
- ・ **岡田久志**, 「鉄骨工事技術指針・施工現場編(6 版)」, 日本建築学会(2007.2)

- ・ **廣内大助**, 「土地条件と試錐資料に基づく企業敷地周辺の詳細地盤解析」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書 (平成 17 年度), pp.51-53 (2006.7)
- ・ **廣内大助**, 「テフラ層序を考慮した阿寺断層帯湯ヶ峰断層における古地震活動時期の検討」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書 (平成 17 年度), pp.104-106 (2006.7)
- ・ 池田安隆, 熊原康博, **廣内大助**, 中田 高, 岡田篤正, 「1:25000 都市圏活断層図「萩原」」, 国土地理院技術資料, D・1-No.458 (2006.11)
- ・ 中田 高, 岡田篤正, 池田安隆, **廣内大助**, 越後智雄, 「1:25000 都市圏活断層図「下呂」」, 国土地理院技術資料, D・1-No.458 (2006.11)
- ・ 岡田篤正, 中田 高, 後藤秀昭, **廣内大助**, 澤祥, 「1:25000 都市圏活断層図「坂下」」, 国土地理院技術資料, D・1-No.458 (2006.11)
- ・ **西村雄一郎**, 「中越地震における職場・家庭の復旧に関する調査一日常生活空間・時間に着目して一」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書, pp.86-88 (2006.6)
- ・ **西村雄一郎**, 「人的被害軽減のための設備改善シミュレーション・実験」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書, pp.59-60 (2006.6)
- ・ **西村雄一郎**, 廣内大助, 古瀬勇一, 落合鋭充, 「企業地域防災マッピングシステムの構築」, 愛知工業大学地域防災研究センター年次報告書, pp.54-56 (2006.7)
- ・ **西村雄一郎**, ラオスの近代化・グローバル化による日常生活変化の 2 つの道筋ーヴィエンチャン縫製業労働力調査とドンクアイ村 GPS・GIS による生活行動調査・世帯悉皆調査の分析からー」, 総合地球環境学研究所生態史プロジェクト 2005 年度成果報告書, pp.323-332 (2006.9)
- ・ **南部世紀夫**, 地震被災度予測 GIS システム、ArcGIS 事例集 (Vol.3) 2006.11

【学会発表・プロシーディングス】

- ・ 檜下峰治, **正木和明**, **入倉孝次郎**, 「経験的グリーン関数法を用いた 1998 年 4 月 22 日三重県北部地震の強震動シミュレーションと震源モデル」, 土木学会中部支部研究発表会, pp.33-34 (2007.3)
- ・ 富田玄武, **倉橋奨**, **正木和明**, 「微動アレイ観測による岡崎平野の地下構造探査」, 土木学会中部支部研究発表会, pp.35-36(2007.3)
- ・ **Susumu Kurahashi**, **Kazuaki MASAKI**, Yoshihiro SAWADA and Ling SUGUN, "Verification of applicability of microtremor array survey", Proc. of 3rd Int. Sym. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Grenoble, France, 30 Aug. – 1 Spt., pp.327-334 (2006.8)
- ・ Norio ABEKI, Yasumasa NAKAJIMA, Iware MATSUDA, **Kazuaki MASAKI**, Isaac BALDERAS ROMERO, Rodolfo MEDERANO CASTILLO, Samuel MARTINUZ AQUINO, Pablo AMADOR PUERTOS, "Seismic Intensity Distribution of 1999 Tehuacan City Earthquake(Mexico) as Deduced from Results of Questionnaire Surveys, Proc. of 3rd Int. Sym. on the Effect of Surface Geology on Seismic Motion, Grenoble, France, 30 Aug. – 1 Spt., pp.1013-1020 (2006.8)
- ・ **K. Irikura**, H. Miyake: Recipe for Predicting Strong Ground Motions: State of the Art and Future Prospects, 100th Anniversary Earthquake Conference, San Francisco, California, April 18-21, 2006
- ・ **入倉孝次郎**, 三宅弘恵, 香川敬生, 栗田泰夫, 佐藤俊明, 壇一男, 松島信一, 宮腰研: 長大断層で発生する地震の強震動予測: 固有地震と非固有地震・活動セグメントとその連動, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会, 2006 年 5 月 14 日
- ・ **K. Irikura**: Earthquake hazard prediction: Asia Oceania Geoscience Society's 3rd Annual Meeting (AOGS 2006)

in Singapore, 10 to 14 July 2006

- ・ **K. Irikura** and H. Miyake: Lecture Note on Strong Motion Seismology: 8th Workshop on Three-Dimensional Modelling of Seismic Waves Generation, Propagation and their Inversion (25 Sep.-7 Oct. 2006) in Trieste Italy
- ・ **入倉孝次郎**: 「強震動予測」を防災に活かす, 日本地震学会秋季大会特別セッション, 2006年11月1日
- ・ **入倉孝次郎**, 釜江克宏, 川辺秀憲, 佐藤俊明, 壇一男, 中川佳久, 斉藤賢二, 土肥博, 巨大地震時における長周期構造物の被害予測と被害軽減化対策, 日本地震学会秋季, 2006年11月1日
- ・ 柘植美孝, **建部謙治**, 「団地周辺の施設から提供される福祉サービスに関する研究」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp.971-972 (2006.9)
- ・ **建部謙治**, 「2005 愛知万博時の群集流動」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1, pp.889-890 (2006.9)
- ・ 吉岡竜巳, **建部謙治**, 「小学校における避難シミュレーションを利用した防災教育に関する研究」, 日本建築学会東海支部研究報告集, 第45号, pp.537-540 (2007.2)
- ・ **建部謙治**他, アーキテクテク編集委員会編, 「アーキテクテク 東海の現代建築ガイド」, 建築ジャーナル, 名古屋, pp.62-64 (2006.4)
- ・ 仁尾浩之, 鈴木森晶, 青木徹彦, **奥村哲夫**, 「固定屋根式タンクのスロッシング現象の検証試験」, 土木学会第61回年次学術講演会概要集, pp.877-878(2006.9)
- ・ **S. Nagataki**, "Durability Aspects of Concrete Made with Recycled Aggregates", The 7th CANMET/ACI International Conference on Durability of Concrete, Kenji Sakata Symposium, pp.197-212 (2006.5)
- ・ 林 錦眉, 佐伯 竜彦, 田野崎隆雄, 南部 正光, 堀内 澄夫, 川口 正人, 小針 厚志, **長瀧重義**, 「石炭灰 FA のキャラクターゼーション (4)」, 地盤工学会 41 回講演要旨 (2006.7)
- ・ **S. Nagataki**, C.Wu, "Quality Control of Ready-mixed Concrete in Japan" The 6th International Symposium on Cement & Concrete, Vol.2, pp.799-806, Xi'an, China, (2006.9)
- ・ C.Wu, **S. Nagataki**, M.Tawara, W.Yuki, K.Fujii, "A New Admixture for Producing High Performance Grout Used in Post-tensioned Prestressed Concrete Structures" The 6th International Symposium on Cement & Concrete, Vol.2, pp.1573-1580, Xi'an, China, (2006.9)
- ・ **長瀧重義**, 「最新のコンクリート技術の現状と設計・施工のポイント」, 土木学会第10回新しい材料・工法・機械講習会, pp.1-13, 土木学会講堂 (2007.2.28)
- ・ **岡田久志**, 「ドリルねじによる柱はり接合部の繰返し載荷実験」, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), 構造Ⅲ, pp.5239 - 540 (2006.9)
- ・ 瀧圭佑, **曾我部博之**, 三井和男, 連続値ホップフィールドモデルによる連続体の形状最適化, コロキウム構造形態の解析と創生, p.51 (2006.11)
- ・ 瀧圭佑, **曾我部博之**, 三井和男, ホップフィールドネットワークによる連続体の位相最適化, 第29回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集, p.147 (2006.12)
- ・ 瀧圭佑, **曾我部博之**, 三井和男, 改良型ホップフィールドネットワークによる連続体の位相最適化, 第28回ファジィワークショップ論文集, p.9 (2007.3)
- ・ **小池則満**, 小林啓二, 栗田敬司, 「災害時臨時ヘリポートの評価指標に関する一提案」, 第13回日本航空医療学会プログラム抄録集, pp.65(2006.11)
- ・ 齋藤成彦, **小池則満**, 「ドクターヘリコプターを活用した高速道路事故救援システムに関する一考察」, 土木学会第61回年次学術講演会講演概要集, CD-ROM.4-198(2006.9)
- ・ **Norimitsu Koike**, Shigehiko Saito, Keiji Kurita, "Rescue Simulation with medical helicopters for highway accidents in Japan", Proceedings of AHS International Meeting on Advanced Rotorcraft Technology and Life

Saving Activities, pp.D120-3 (2006.11)

- ・ **小橋勉**, 「航空業界のアライアンスに関する一考察」, 第 283 回日本経営学会中部部会 (於: 中京大学), 2006 年 5 月 13 日
- ・ **Kobashi, T.**, and N. Ito, Toward a Developmental Model of Inter-organizational Learning in Cooperative Strategies, 13th International Conference on Multi-Organizational Partnerships, Alliances and Networks (於: Victoria University of Wellington (ニュージーランド)) (2006.12.1)
- ・ 吾妻 崇, **廣内大助**, 岩崎悦夫, 宇佐美光宣, 「トレンチ掘削調査による高田平野断層帯の最新活動時期の検討」, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・ 奥野真行, 鈴木康弘, 渡辺満久, **廣内大助**, 内田主税, 「地域防災のための三重県活断層マッピング計画」, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・ 鈴木康弘, 糸魚川-静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (**廣内大助**ほか) 「糸魚川-静岡構造線活断層帯の地震時断層挙動および強震動の予測精度向上に資する変動地形調査」, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・ 澤祥, 糸魚川-静岡構造線活断層帯重点調査観測変動地形グループ (**廣内大助**ほか) 「糸魚川-静岡構造線活断層帯北部の変動地形調査および航測解析による平均変位速度解明とその意義」, 日本地球惑星科学連合 2006 年大会 (2006.5)
- ・ Nobuhisa Matsuta, Wen-Shan Chen, Chi-Cheng Yang, Yi-Iching Yan, Neng-Wei Huang, Shih-Hwa Sung, Ruey-Chyuan Shih, Yue-Gau Chen, Mitsuhsa Watanabe, Hiroshi Sawa, **Daisuke Hirouchi** and Yoko Ota "Behavior and structure of the frontal thrust system (Changhua fault) in Houli and Tatushan area", western Taiwan. Asian Oceania Geosciences Society (2006.7)
- ・ 鈴木康弘, 坂上寛之, 内田主税, 石黒聡士, 糸静線重点調査変動地形グループ (**廣内大助**ほか) 「デジタル航測データを基盤とした活断層 GIS のコンセプトと成果-糸静線活断層帯の詳細位置および地震動予測の基礎情報-」, 日本地理学会春季学術大会 (2007.3)
- ・ 谷口薫, 鈴木康弘, 澤祥, 松多信尚, 渡辺満久, 糸静線重点調査変動地形グループ (**廣内大助**ほか) 「糸静線活断層帯中部における変動地形および掘削調査 (速報) -松本および塩尻付近の断層とレースの見直しとその意義-」, 日本地理学会春季学術大会 (2007.3)
- ・ **廣内大助**, 鈴木康弘, 石黒聡士, 杉戸信彦, 後藤秀昭, 堤 浩之, D.Enkhtaivan, O.Batkishig, N.Purevsuren, S.Narangerel, O.Sukhbaatar 「1957 年 Gobi-Altay 地震の地震断層と周辺活断層分布の予察的検討」, 日本地理学会春季学術大会 (2007.3)
- ・ Hideaki Goto, Yasuhiro Suzuki, Satoshi Ishiguro, Nobuhiko Sugito, **Daisuke Hirouchi**, Hiroyuki Tsutsumi, D.Enkhtaivan, O.Batkishig, S.Narangerel, N.Purevsuren, O.Sukhbaatar, Distribution of Active Faults in the Eastern Part of the Gobi-Altay Mountains, Based on Interpretation of CORONA Satellite Photographs (2007.7)
- ・ **西村雄一郎**, 「ラオスの近代化・グローバル化と日常生活の変化」, 経済地理学会中部支部 2006 年 4 月例会, 名古屋大学 (2006.4)
- ・ **西村雄一郎**, 「トヨタ企業社会と従業員家族の生活時空間の変化 90 年代から現在まで」, 人文地理学会特別例会, 中部大学 (2006.6)
- ・ **Yuichiro Nishimura** and Kohei Okamoto, Time-geographic survey using GPS and GIS in suburban village near Vientiane, Laos, International Geographical Union 2006 Brisbane Conference, Brisbane, Australia (2006.7)
- ・ **Yuichiro Nishimura** and Kohei Okamoto, The daily activity in the natural water environment: Time-geographic analysis using GPS and GIS in Dongkhuaai village, Laos, 総合地球環境学研究所第 1 回国際シンポ

ジウム ポスターセッション, 京都国際会館 (2006.11)

・**西村雄一郎**, 「クリティカル GIS の動向ー市民参加 (public participation) ・ジェンダーの視点から日常生活の空間分析を考える」, 人文地理学会地理思想部会, 関西学院大学大阪梅田キャンパス (2007.3)

[研究費の助成を受けた論文又は報告書]

○幸田町受託研究

・**正木和明**, 「平成 18 年度幸田町防災カルテ作成基礎調査成果報告書」(2007.3)

○科学研究費補助金 (若手研究 (B))

・**Yuichiro Nishimura** and Kohei Okamoto, Time-Geographic Analysis On The Change Of Jobs In Vientiane Municipality, Laos. The Lao Agriculture and Forestry Journal: Vientiane, LAOS. (2007 印刷中)

・**西村雄一郎**, ラオスの近代化・グローバル化による日常生活変化の 2 つの道筋ーヴィエンチャン縫製業労働力調査とドンクアイ村 GPS・GIS による生活行動調査・世帯欄悉皆調査の分析からー」, 総合地球環境学研究所生態史プロジェクト 2005 年度成果報告書, p323-332 (2006.9)